
初体験ばかりの危ない恋

セバスチャン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

初体験ばかりの危ない恋

【Nコード】

N0794L

【作者名】

セバスチャン

【あらすじ】

中学二年生の主人公、丹羽 奏にわかなでは同じクラスの神戸祐希かんべゆうきに恋をして告白する。OKされた奏は祐希と付き合い始めるが、彼は変態だった。付き合い合って数日で彼の家に行った奏。彼女はそこで…

中学二年生の男女があんなことやこんなことを…

ある日突然私は恋をしました。

私の名前は丹羽 「にわかほなで 奏。

今年の春に中学2年生になりました…。

私が恋をした相手とは、同じクラスの神戸 かんべゆうき 祐希くんでした。

とても、祐希くんと過ごした時間は楽しくて、時が経つのを忘れるほどでした。ある日、私は祐希くんに告白しました。

「ずっと前から好きでした！付き合ってください！」胸が締め付けられるように苦しかった。

「別にいいよ。」

私は夢でも見てるかと思いました。

お互いにメアドを交換して、その日は家に帰りました。

私は信じられなくて、でも嬉しい気持ちでした。

そしてある日、祐希くんから

「今日、暇？」

というメールが来ました。「暇だけどなんで？」

私が返信してから、3分後ぐらいしてからメールが来ました。

「今日俺の家に来て！」

正直ビックリしました。

でも、嬉しかったのでOKしました。

祐希くんの家に行くと、家の前で祐希くんが出迎えてくれました。

祐希くんの部屋に入り、荷物を置いて、ベッドに腰をかけていました。

すると、

「今日何のために俺が君をよんだかわかる？」
と聞いてきました。

「分からない。」

そう私が答えると、祐希くんは私をベッドに押し倒しました。

「えっ!?!なに!?!」

「なにつて…。まだ分からないの?」

祐希くんは、私のシャツの下から手を入れて胸を触ってきました。

「ちよっ…!やだ…!」

祐希くんは、もう片方の手を私のスカートの下から入れて下着の中を触ってきました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0794/>

初体験ばかりの危ない恋

2010年10月12日07時58分発行